

令和6年度養父市財政計画の概要

財政計画とは

今後10年間の歳入歳出を試算し、今後の養父市の財政状況を把握するための計画

説明資料

1. 現在の養父市の状況
2. 今後の養父市の状況(財政計画)

1. 現在の養父市の財政状況

①健全化判断比率は「健全」

②自主財源割合が低い

③経常収支比率の上昇

1. 現在の養父市の財政状況 ①健全化判断比率は「健全」

健全化判断比率とは

地方自治体の財政破綻を未然に防ぐことを目的としてつくられた「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」で議会への報告・住民への公表が義務付けられている4つの財政指標

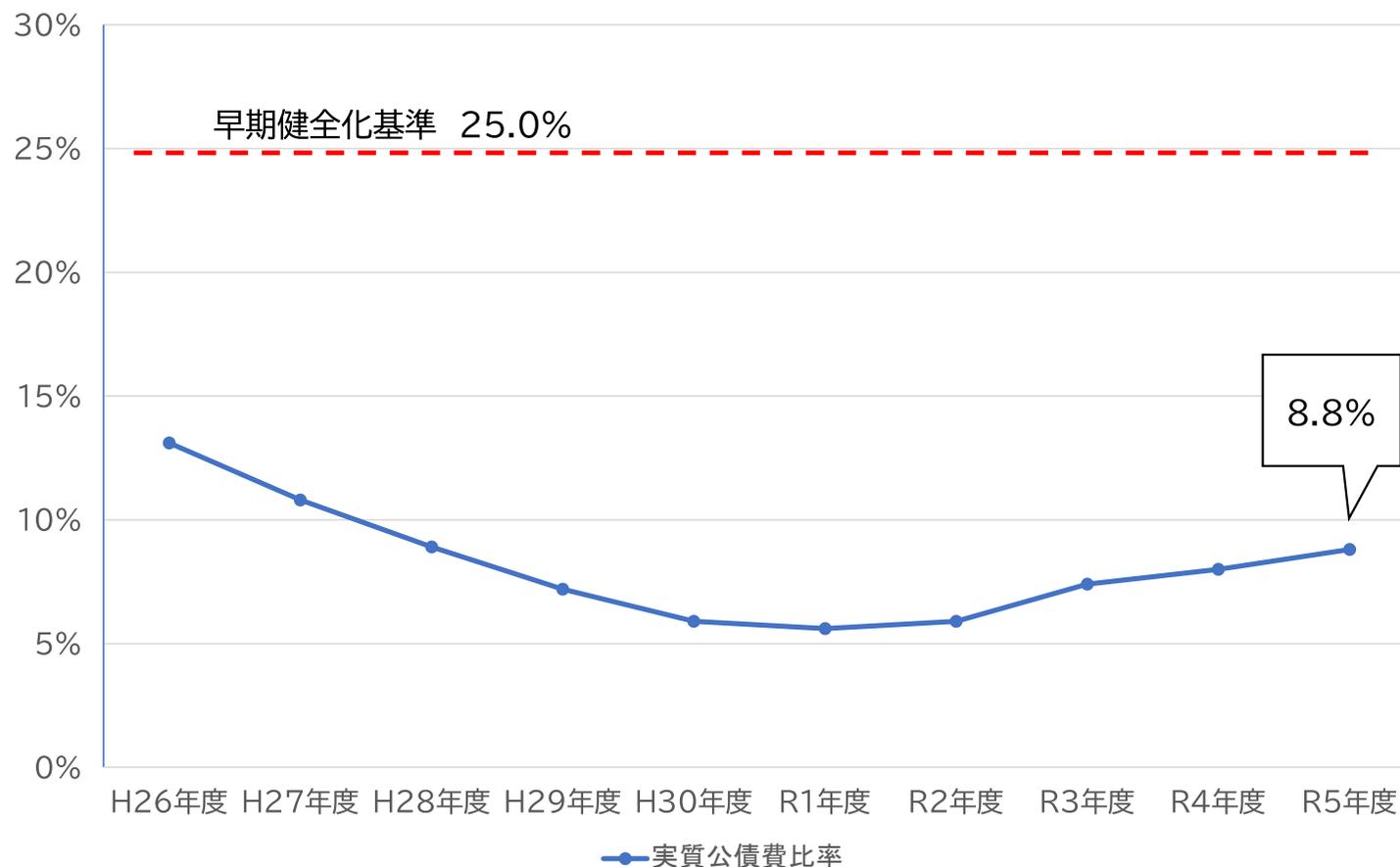
数値によって「健全」「早期健全」「財政再生」に分けられる

- ・実質赤字比率
- ・連結実質赤字比率
- ・実質公債費比率
- ・将来負担比率

養父市において実質赤字・連結実質赤字は発生していない
下の2つの指標で判断

実質公債費比率・・・健全

1. 現在の養父市の財政状況 ①健全化判断比率は「健全」



実質公債費比率とは
公債費(借金の返済)が、標準的な財政規模に対してどの程度の割合となっているかを図る比率

値が高いほど借金返済の負担が重く、自由に使えるお金の割合が少ない

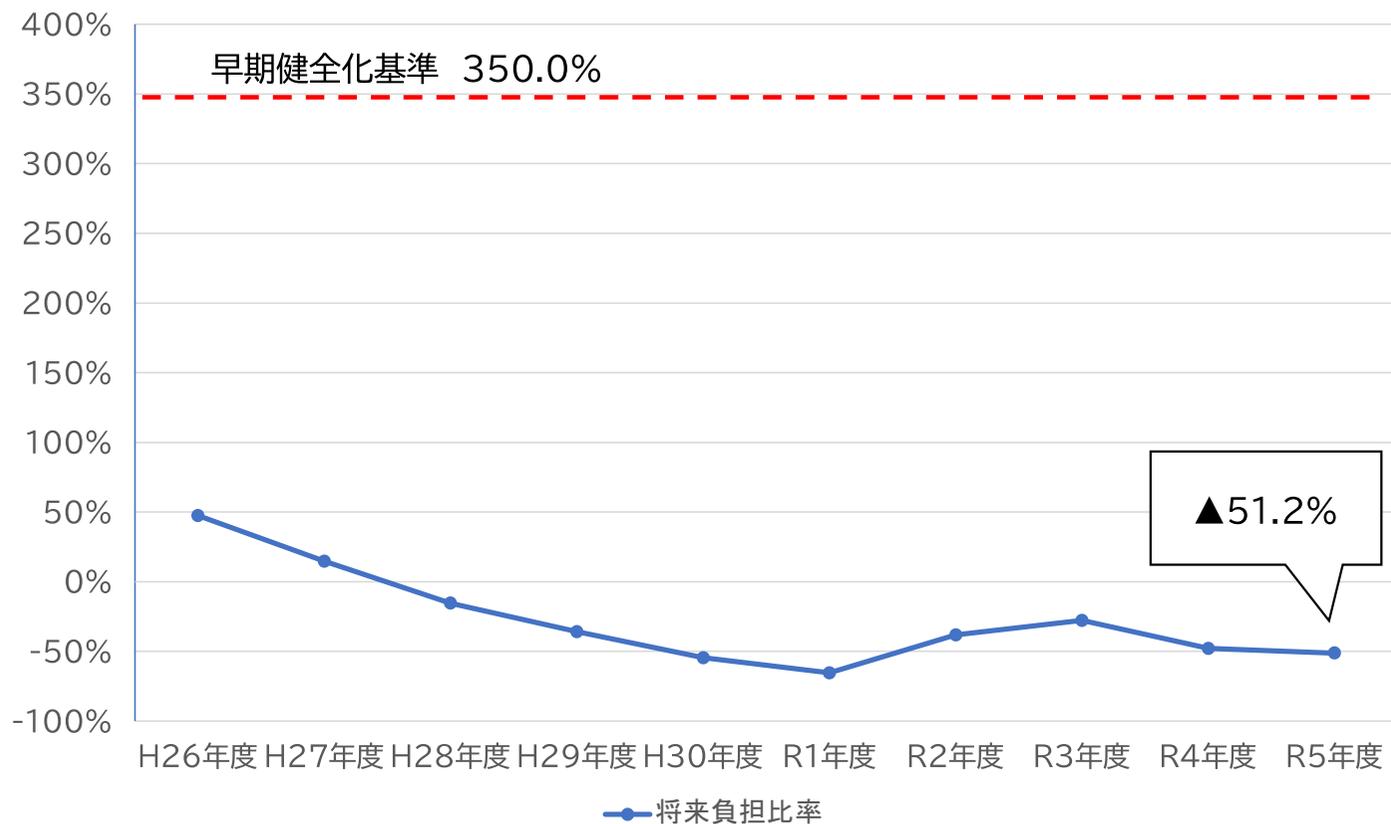
25%を超えると早期健全化団体

養父市の状況

令和5年度時点で8.8%であり、早期健全化基準を下回り健全な状態

将来負担比率・・・健全

1. 現在の養父市の財政状況 ①健全化判断比率は「健全」



将来負担比率とは

経常的な収入に対する債務の大きさを測定する指標
数値が低いほど、将来の財政負担が少ないことを示す

350%を超えると早期健全化団体

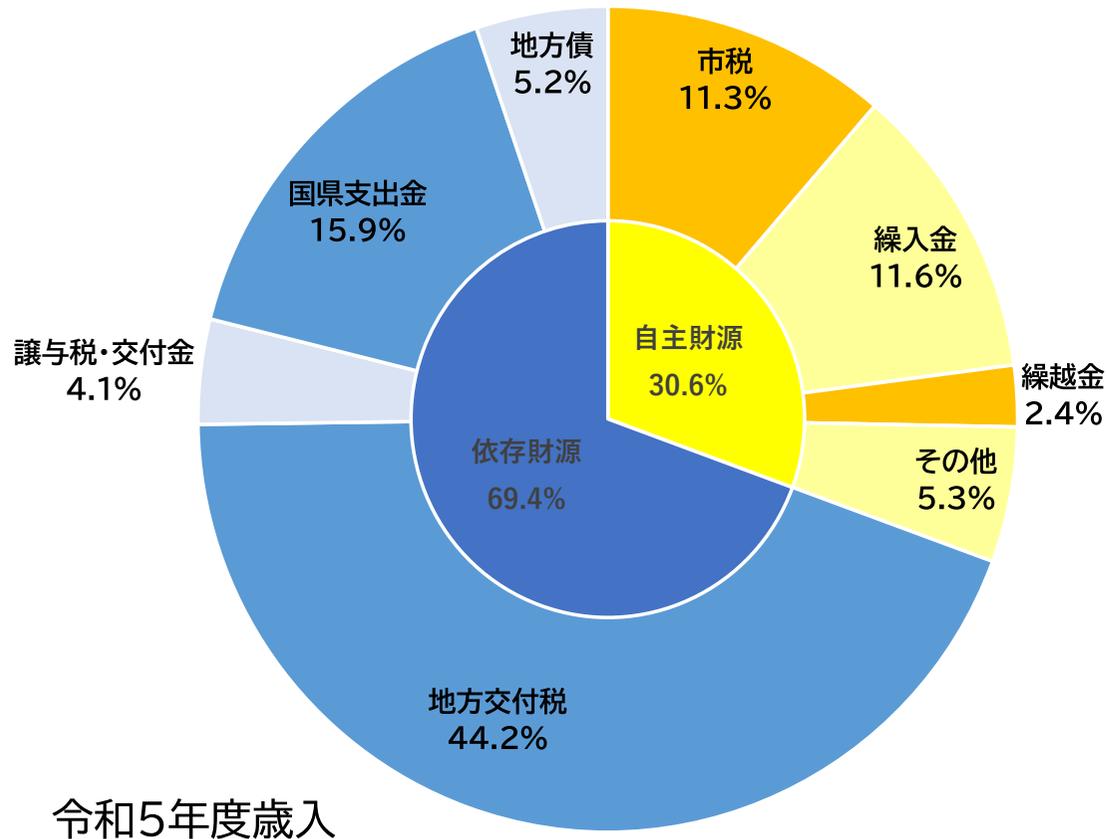
養父市の状況

平成28年度以降マイナスであり、将来債務を現在の貯金で賄うことができる状態

早期健全化基準を下回り健全

1. 現在の養父市の財政状況
②自主財源割合が低い

養父市の歳入財源の特徴



自主財源とは

市税・基金繰入金など市独自の財源

依存財源とは

地方交付税・国県支出金など他からの財源

養父市の場合

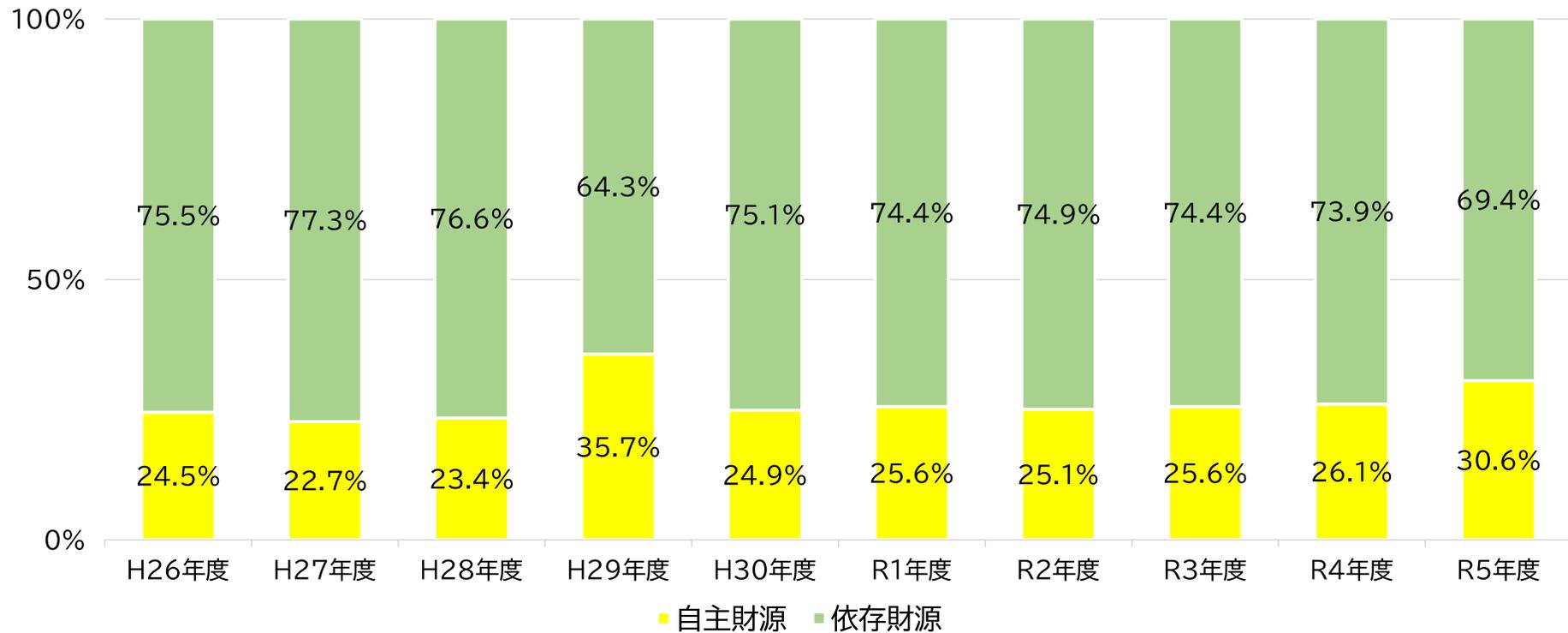
地方交付税44.2%を含め、依存財源が69.4%

→国県の動向に左右されやすい

1. 現在の養父市の財政状況
②自主財源割合が低い

自主財源比率の推移

自主財源は概ね30%
未満で推移



※H29年度、R5年度は基金繰入金増による自主財源増

1. 現在の養父市の財政状況 ③ 経常収支比率の上昇

経常収支比率とは

経常経費充当一般財源 / 経常一般財源

経常的な収入に占める経常的な支出の割合
数値が低いほど臨時的経費に回せるお金が多いことを示す

経常収支比率が100%を超えると？

- ・経常的な歳出を経常的な収入で補うことが出来ない
- ・政策的な事業を行うことが難しい
- ・投資的経費を市債で賄うことや基金(市の貯金)を毎年取り崩して歳入を補うことから、将来的な健全化判断比率の悪化につながる

経常収支比率を抑える必要がある

- 1. 現在の養父市の財政状況
- ③ 経常収支比率の上昇

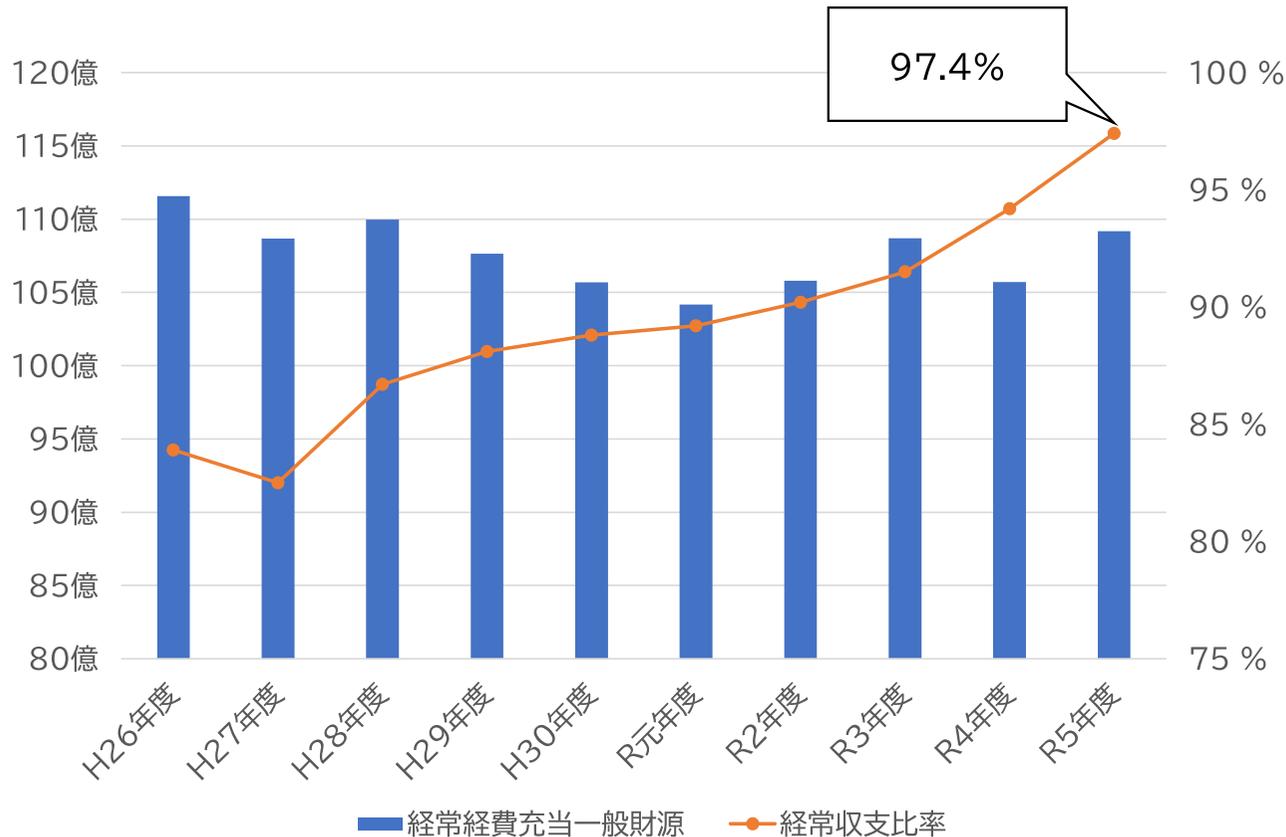
地方交付税収入の減少

10年で14億円減少



1. 現在の養父市の財政状況
③ 経常収支比率の上昇

養父市における経常収支比率の推移

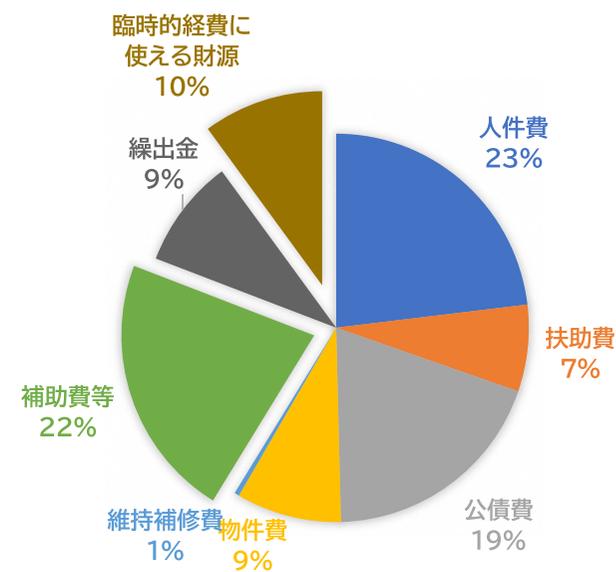
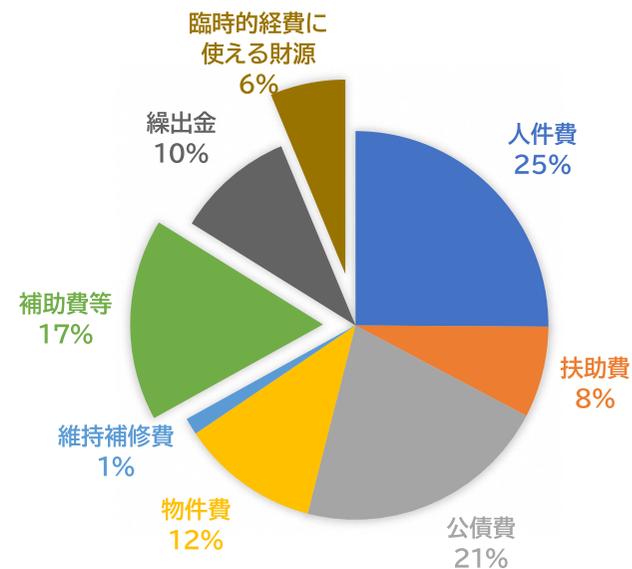
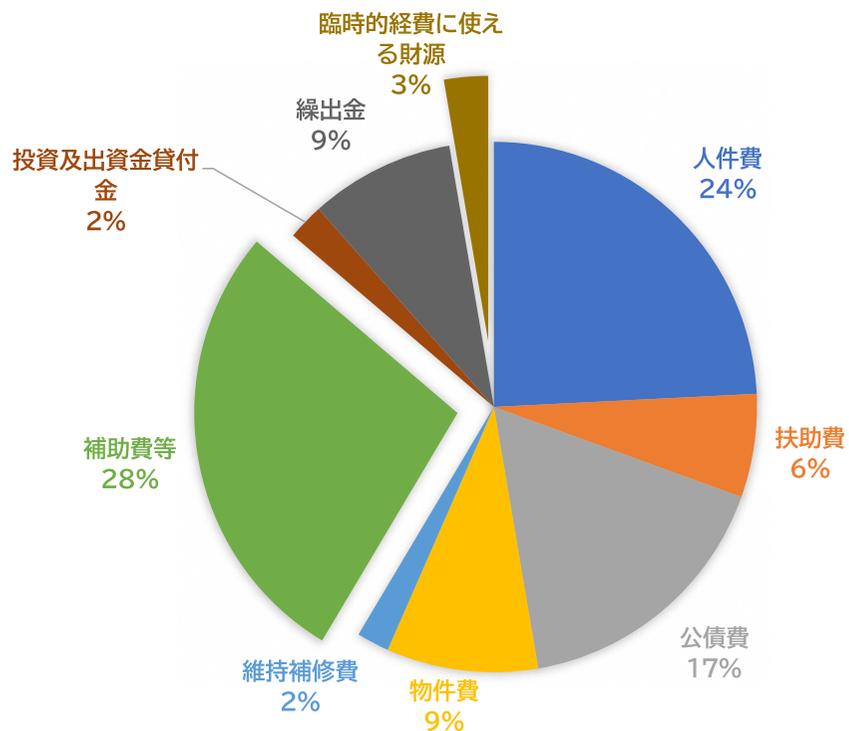


経常的な収入
市税・普通交付税の減により減少

経常的な歳出
横ばい

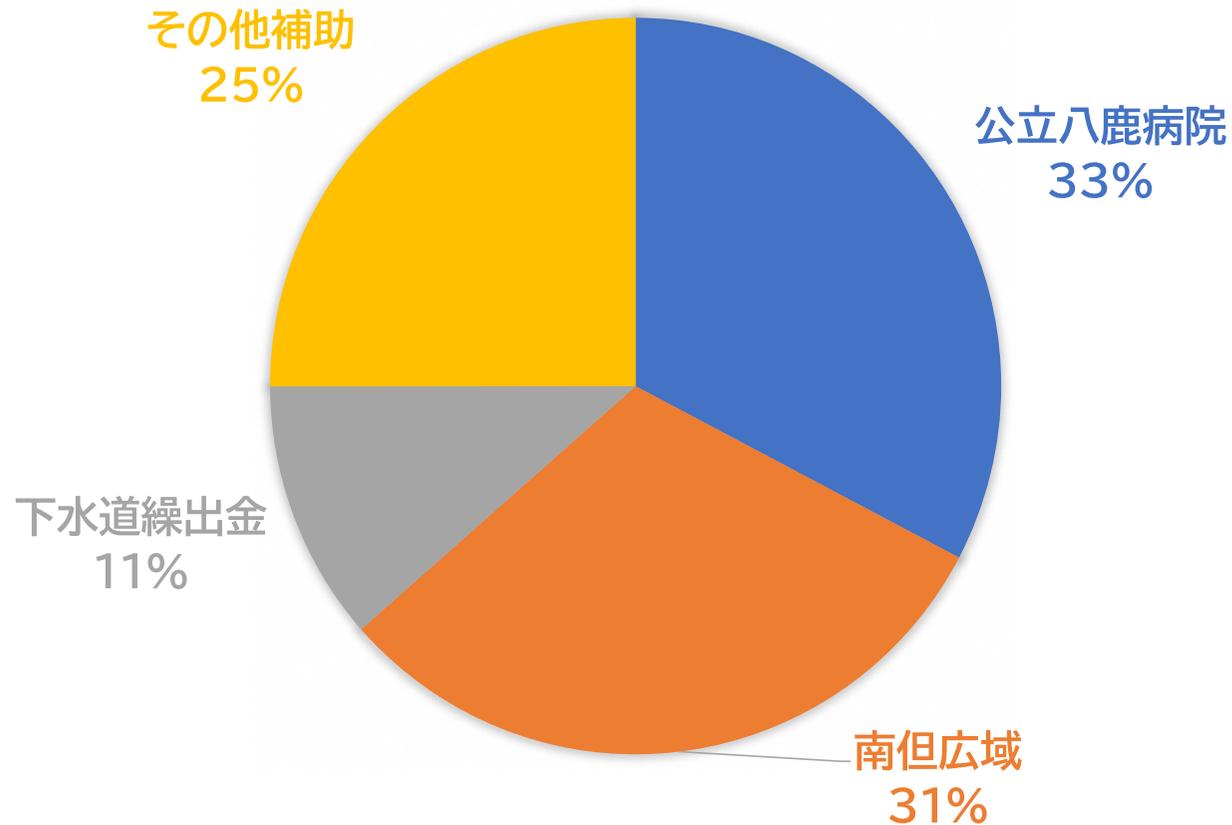
令和5年度時点の経常収支比率
97.4%

R5年度における経常的財源の充当内訳



補助費等の割合が他市と比べて高く、
臨時経費に使える財源が低い

補助費等の内訳



公立八鹿病院・南但広域
行政事務組合への補助が
大半を占めるため、削減
が難しい

2. 今後の養父市の状況(財政計画)

- ・令和7年度から15年度までの養父市の決算状況見込み
- ・歳入歳出増減や基金残高、市債残高の見込みから健全化判断比率を算定

※令和6年8月時点の状況に基づいて試算

※人事院勧告に伴う人件費増等は試算に含んでいない

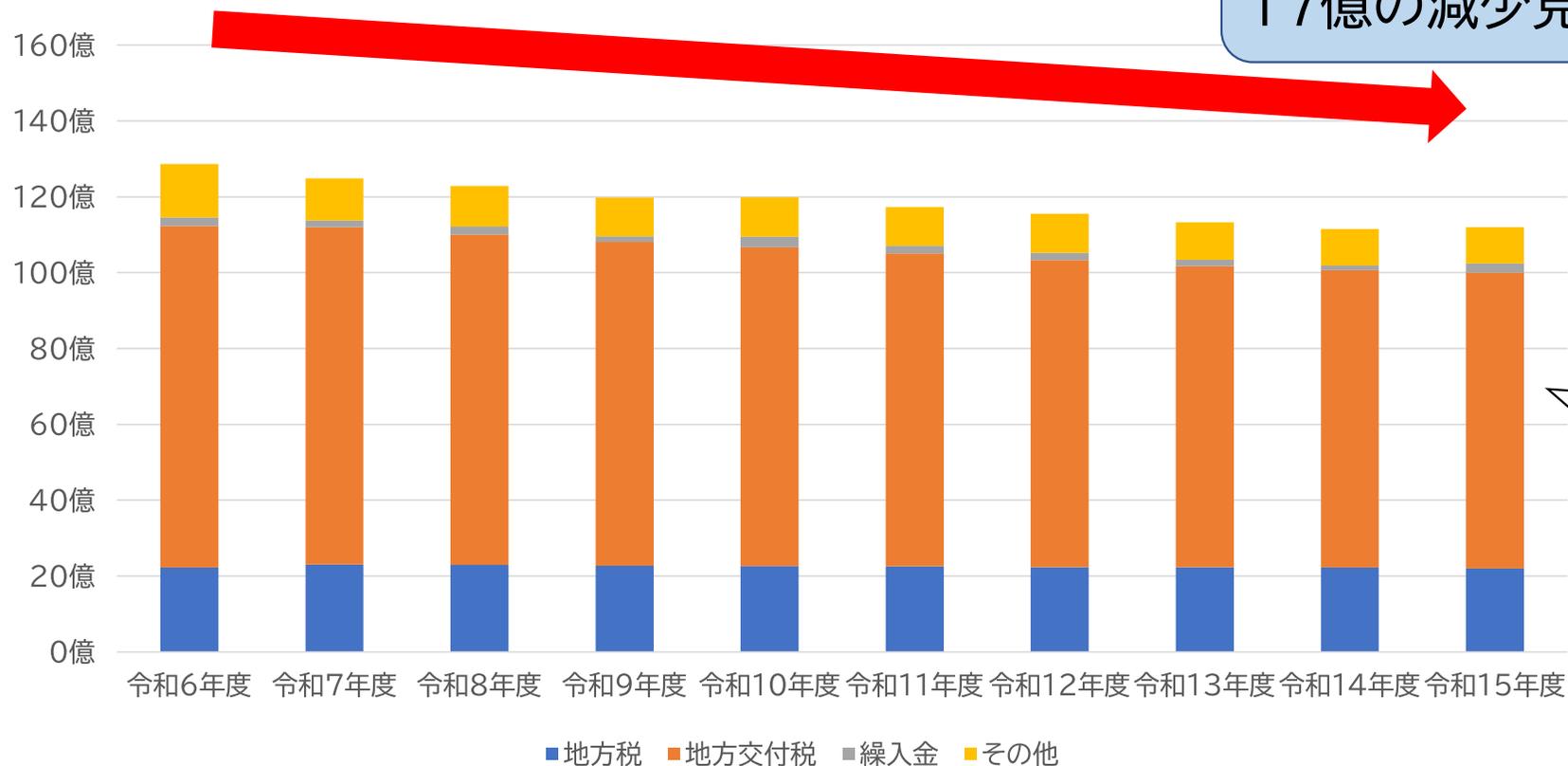
2. 今後の養父市の状況

- ①歳入減
- ②実質収支不足
- ③基金残高減
- ④健全化判断比率は悪化傾向

今後の養父市の状況
①歳入減

歳入一般財源の推移

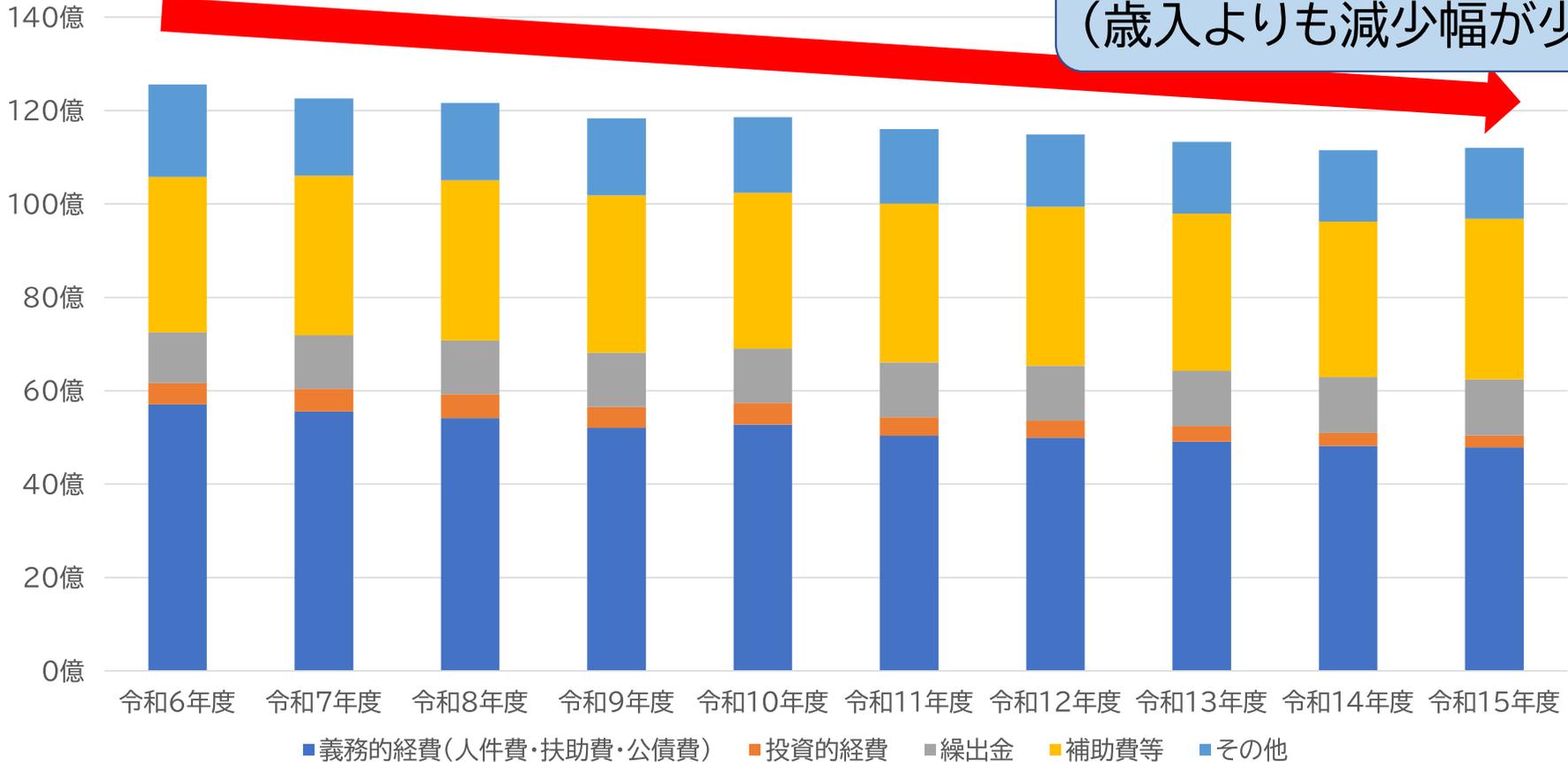
地方交付税の減により、10年で
17億の減少見込



今後の養父市の状況
②実質収支不足

歳出一般財源の推移

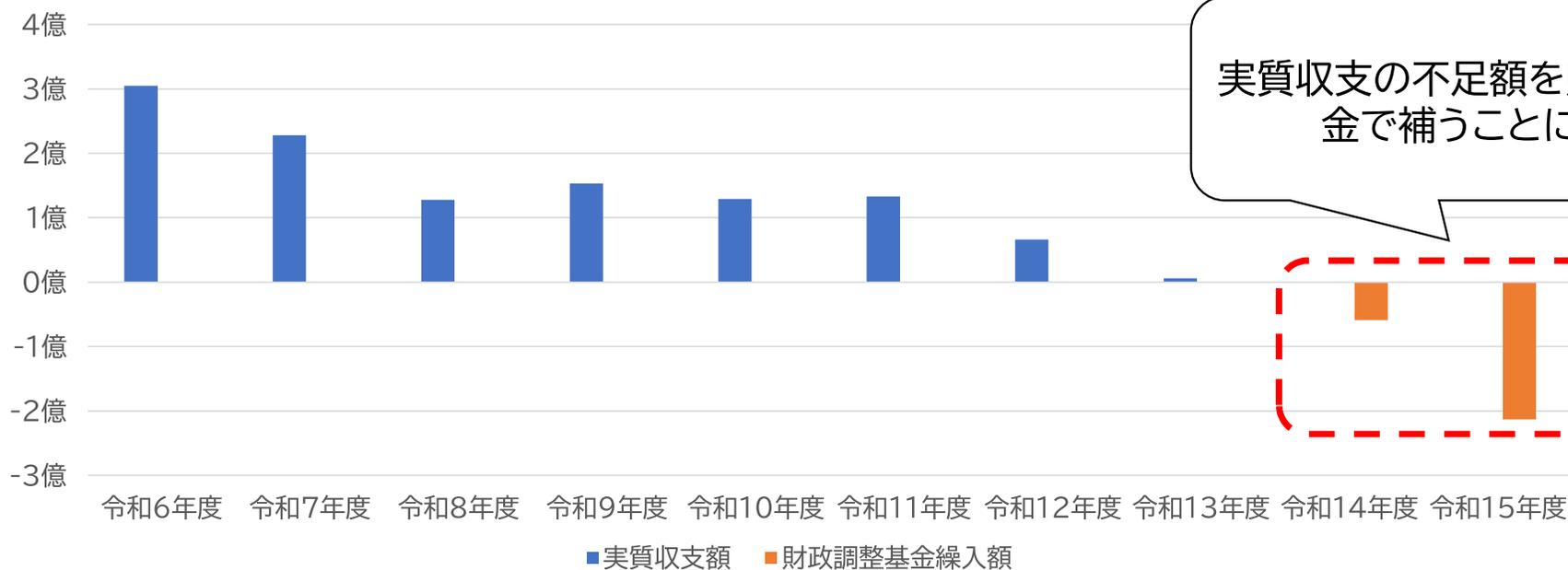
10年で14億の減少見込
(歳入よりも減少幅が少ない)



実質収支額の推移

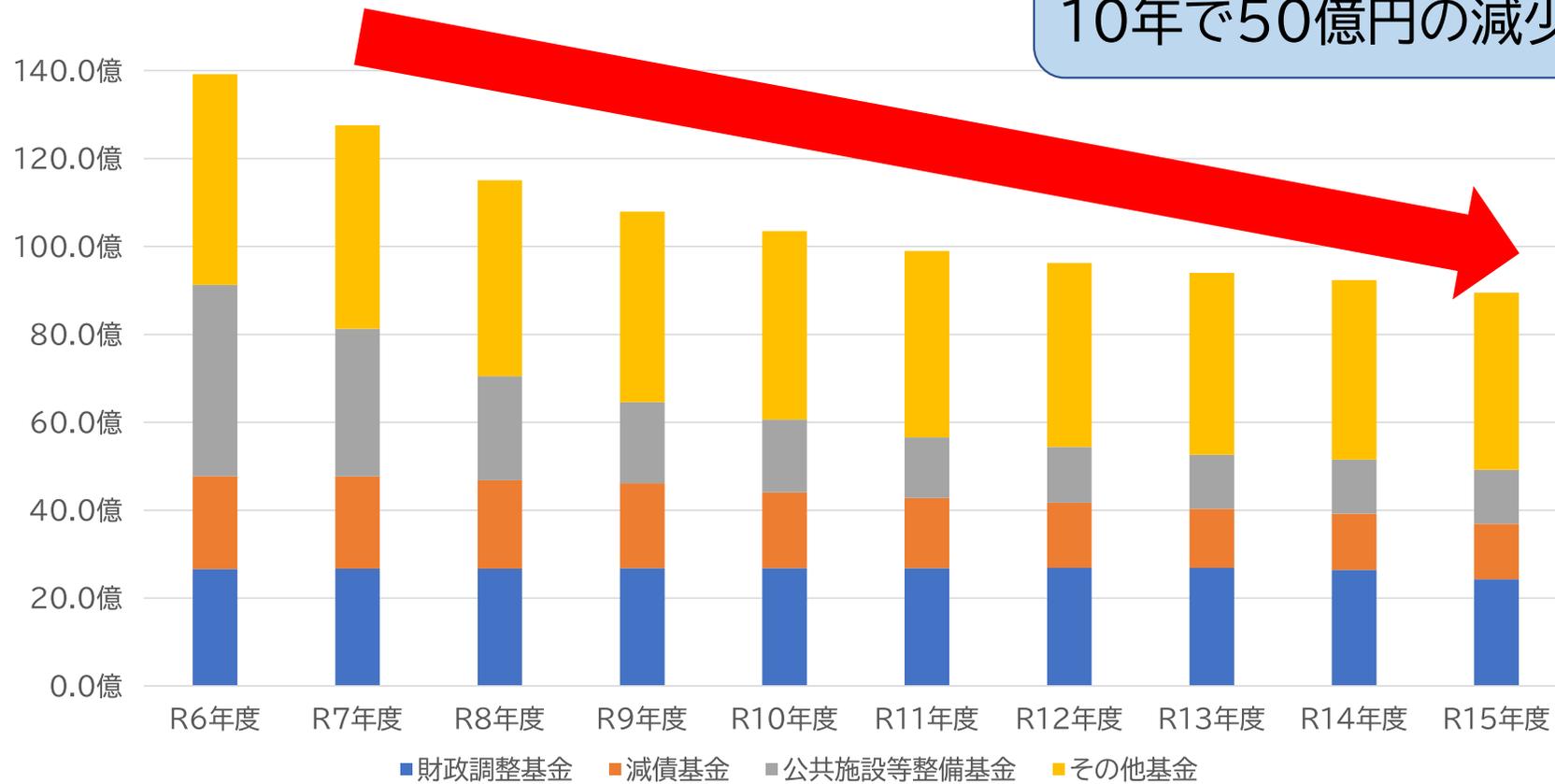
実質収支額
⇒ 収入 - 支出

実質収支の不足額を財政調整基金で補うことになる



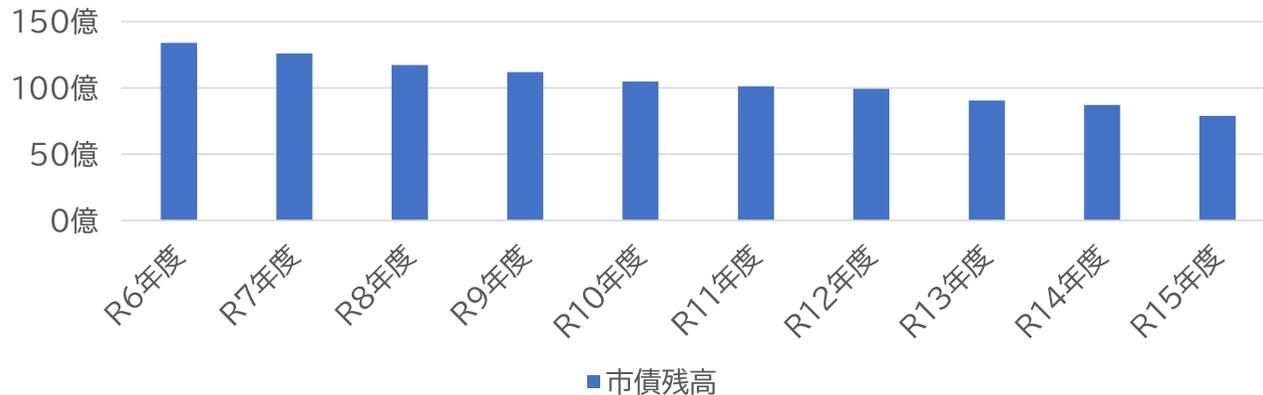
基金残高の推移

公共施設等整備基金等の減により、
10年で50億円の減少見込



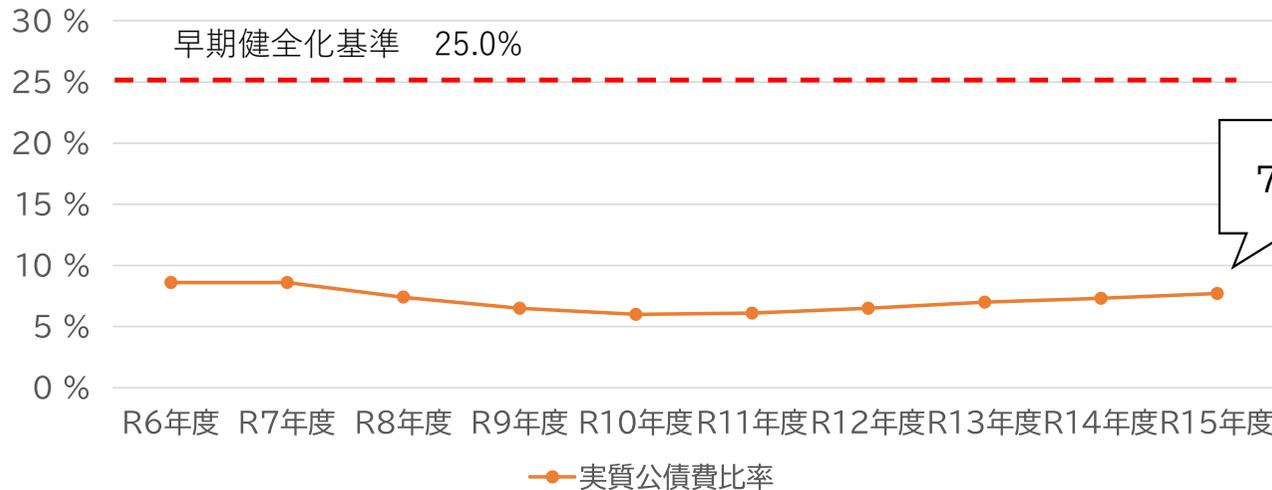
今後の養父市の状況
④健全化判断比率は悪化傾向

市債残高と実質公債費比率の推移



市債残高

繰上償還等の実施により、10年で53億円減少



実質公債費比率

財政規模の縮小に伴い、計画年度の後半で比率が悪化する見込み

今後の養父市の状況
④健全化判断比率は悪化傾向

将来負担比率の推移

基金等財源の減により、R14年度から将来負担比率が発生する見込み

